



理学部・植物学教室図書室

理学部には、学部総合の図書室は無く、各教室ごとに図書室を持っている。その一つ、約50年の歴史を持つこの図書室は、規模も小さく、立派な設備もないが、植物分類学に関する書物の中には、貴重なものがそろっている。それは、第一次世界大戦の後、敗戦で困っていたドイツの学者がヨーロッパの古典の、手に入り難いものをたくさん手離した際に購入したから、と聞きおよぶ。ヒマラヤ関係の図書も相当そろっていて学術探検隊のお役に立った事もしばしばである。

蔵書数は約1万3千冊余（購入外国雑誌は約30種）、すべて開架式、教室員は各自、自由に利用できることになっているが閲覧室が狭い故に図書室内での閲覧よりも複写のため借出すほうが多いようである。学外からの利用者も相当数あって、日本でここだけしかないという文献を、はるばる遠方から見に来られるかたもある。

いづこも同じ人手不足でほとんど閉室状態であったが、数年前から定員外の図書係が1人常勤して、司書としての務めを、別けても Referencer としての奉仕を少しでもよくしたいものと心がけている。これまでなかった書名カードの作成を終り、これからは件名カードを、できうる限り展開させて、多く作りたいものと念願している。

あとがき 今月も示唆に富んだ立派な原稿を多数、御寄稿いただき、遅ればせながら26号を皆様のお手元にお届けすることができました。

巻頭言では、一人の人間の生涯読書量が科学的な裏づけをもって述べられており、限られた読書量の範囲で、いかに有効な読書計画をたてるべきかを、学生諸君に説いておられます。有効な読書は、資料の有効な活用の中からしか生まれません。その意味でも、“一言・ふたこと”欄にも述べられている図書に関する全学的な協力体制が一日も早く整えられることを新しい年の始めにあたって願わずにはおられません。

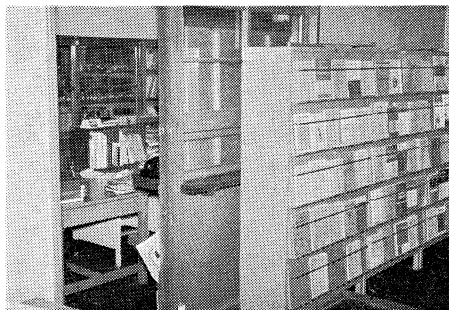
理学部・動物学教室

動物学教室の図書室は教室の裏側、植物学教室との境にある。大正8年教室発足と同時の創設で、蔵書数は約1万冊、中には稀覯本もあり、わが国では当教室だけという雑誌も多い。Siebold; Fauna Japonica (I—IV) はとくに有名で、世界的な価値をもち、貴重書展には必ず展覧される。図書館文献複写係を通じての雑誌の複写依頼も非常に多い。年間予算は現在約200万円、他に数10種ほど寄贈の雑誌・研究所報告等もある。

図書室は発足当時のままなので、書庫の余裕が全くなく、ふつうの部屋を書庫に転用し、それでも足りなく積み上げてある本もある。

職員は1名、図書事務一般、複写その他の雑用を処理しているが時間が足りず、どうしてもサービスに欠けることが出て来る。特に閲覧時間延長の希望が多いがその要求に応じられず悩んでいる。

最近、植物学教室図書室との境のドアが開かれて両方から利用できるようになった。将来、動植教室図書室の合併が実現するようになれば職員も複数になり、利用者へのサービスもよりよくできるものと思われる。



動物学教室図書室

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 5, No.5 (通号26号) 1969年1月15日発行・編集発行人：岩袋敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771-8111 (内線) 2220-2238